

特集

へき地・離島で 命を，地域を救う

全国でドクターヘリやドクターカーの運用が行われるようになり、救急医療も院内から病院前へと展開され、質の向上が図られてきました。へき地や離島でもその恩恵を授かる部分が数多く出てきましたが、実際には各地域で尽力されている先生方の地域医療の実践により、住民の命が救われている部分がまだまだ大きいと思われます。

そこで今号では「へき地・離島で命を，地域を救う」をテーマに、全国各地のへき地・離島医療の現場でご活躍されている先生方、あるいは地域医療を支援されている先生方から、①へき地・離島の救急を含めた医療の現状、②10年前と比較した変化・良くなった点と変わらない点（＝課題）、③各地域における変化・改善への努力や工夫、取り組み、④変わらない点（＝課題）の解決にむけた展望や可能性を論じていただく特集を企画いたしました。

中山間へき地は青森県・島根県・広島県・宮崎県から、離島は小離島を鹿児島県・沖縄県、大離島を島根県・長崎県から、さらに、へき地・離島を支援する高次医療機関として青森県・長崎県から執筆いただきました。また、へき地・離島で難渋する場面も多い小児領域や産婦人科領域に関して、地域で医療の実践や教育などに取り組みつづける先生方にも執筆いただいています。

本特集には各先生からたくさんのメッセージやキーワードが記述されていますが、そのなかの一つを紹介しましょう。“rural context”＝“地域の実情にあわせた診療を行うスキル”です（齋藤学先生の項目より）。これは、へき地・離島だけでなく、どのような地域にも当てはまる考え方だと思います。

今回の特集を通じて、へき地・離島における医療の現状・課題について理解が深まること、救急医のキャリアの一つとしてへき地・離島で活躍する道を掲示すること、そして、今後予想される都市部の高齢多死社会での理想的な医療体制・連携の構築につながることを期待します。

特集企画ゲストエディター：高山 隼人

ながさき地域医療人材支援センターセンター長
長崎大学病院地域医療支援センター副センター長
へき地・離島救急医療学会代表理事